

平成25年度開設予定学部等一覧

1 学部を設置するもの

4校

平成24年12月

区分	大学名	学部名 学科等名	入学 定員	位置	設置者	留意事項	備考
私立	石巻専修大学	人間学部 人間教育学科 人間文化学科	人 40 40	宮城県石巻市	学校法人 専修大学	<p><人間教育学科> ・「学校心理モデル」を選択する学生だけでなく、「初等教育モデル」、「幼児教育モデル」を選択した学生も心理学分野の授業科目を履修することが想定されることから、心理学分野の教員について、今後必要に応じて充実すること。</p> <p><人間文化学科> ・人間文化学科が教育研究の対象の中心とする「地域」は石巻圏域を中心とした「生活地域」であり、設定している4つの履修モデルを「生活視点からの地域研究」と「グローバルな視点からの地域研究」に分けてそれぞれが相互補完しながら地域振興へとつなげていく計画であるとの説明であるが、当該計画をより具現化し体系的な組織となるよう、教育課程について以下の点を踏まえ充実すること。 (1)「生活地域」に重点を置いた計画であり、「生活視点」と「グローバルな視点」を相互補完し地域振興に資する観点から、例えば、専門基幹科目の「地域社会論」、「地域福祉論」を必修化し4つの履修モデルに位置付けるなど、教育課程の充実を図ること。 (2)「グローバルな視点からの地域研究」について、地域振興につなげていくとしていることから、伝統文化、民俗学、まちづくり等に関する授業科目を開設し、履修モデル「地域文化研究モデル」、「芸術文化研究モデル」に位置付けるなど、教育課程の充実を図ること。</p> <p>・本学科の教育・研究対象の中心となる「地域」の考え方について、大学の想定する地域は「生活地域」とする一方で、専門教育科目区分の「ことばと芸術文化」と「生活と地域文化」で使われている「地域」の意味合いが異なるなど、申請書全体で異なる意味で使われているように思われることから、科目履修を行う学生が教育内容を誤解することがないような適切な配慮を行い、構想した教育内容を着実に履行すること。</p> <p>・地域振興に重点を置く計画であることから、学術雑誌について、例えば、地域社会学会年報、家族社会学研究、福祉社会学研究、地域福祉研究、日本の地域福祉、コミュニティ政策等、地域社会の研究に係る雑誌を充実すること。</p>	<p>理工学部 生物生産工学科（廃止） (Δ45) （3年次編入学定員） (Δ8) 基礎理学科（廃止） (Δ65) （3年次編入学定員） (Δ8) 平成25年4月学生募集停止 〔編入学定員については、平成27年4月学生募集停止〕</p> <p>経営学部 経営学科〔定員減〕 (Δ40) （3年次編入学定員） (Δ35)</p> <p>理工学部 機械工学科〔定員減〕 (Δ5) （3年次編入学定員） (Δ8) 情報電子工学科〔定員減〕 (Δ5) （3年次編入学定員） (Δ8) 〔編入学定員については、平成27年4月学生募集停止〕</p>
〃	創価大学	看護学部 看護学科	80	東京都八王子市	学校法人 創価大学	・特になし。	

(注) 「備考」欄の()書きの数字は、今回の認可申請に伴う、既設学部等の入学定員の変更状況を示す。

区分	大 学 名	学 部 名 学 科 等 名	入 学 定 員	位 置	設 置 者	留 意 事 項	備 考
私立	常葉学園大学	経営学部 経営学科 (3年次編入学定員)	300 20	静岡県浜松市 静岡県富士市	学校法人 常葉学園	<p>・2つのキャンパスにおいて同一の教育課程で授業を行うのであれば、教員間の連携強化やテキストの標準化等により、2つのキャンパスにおける教育の質や内容を担保すること。また、授業内容が重複している授業科目があることから、授業内容を精査し、授業科目毎に教育内容の差別化を図ること。</p> <p>・「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「マーケティング論」等の授業科目は、2単位の授業科目としては内容過多であるため、教育内容又は単位数(授業計画)を適切かどうか検証すること。</p> <p>・必修科目である「会計学」の履修が、選択科目である「簿記Ⅰ」、「簿記Ⅱ」の履修を前提としていることから、選択・必修の別を見直し、体系的に会計学を履修できる教育課程に改めること。</p> <p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p> <p>・既設の大学等の消費支出に対する教育研究経費の割合が同系統の大学等を設置する学校法人に比べ低く、また、近年この割合が低下傾向にあることから、教育研究条件の充実向上に努めること。</p> <p>・統合に伴う学部新設案件について、既に教育研究に必要な施設及び設備が備えられていることから、審査基準上、設置経費が標準設置経費を下回っても差し支えないが、校舎(機械、器具等)の整備にあたり教育研究に支障がないよう配慮すること。</p> <p>・認可後に補助金(静岡県及び静岡市)が収納予定であることから、収納後、速やかにその旨を報告すること。</p> <p>・既設校の今後の定員充足の在り方について検討すること。 (常葉大学短期大学部 日本語日本文学科、音楽科、英語英文科)</p>	<p>浜松大学(廃止)</p> <p>ビジネスデザイン学部 経営情報学科 (△120) (2年次編入学定員) (△20) (3年次編入学定員) (△5) サービスと経営学科 (△120) (2年次編入学定員) (△10) (3年次編入学定員) (△5)</p> <p>健康プロデュース学部 健康栄養学科 (△80) (3年次編入学定員) (△10) こども健康学科 (△60) (3年次編入学定員) (△20) 心身マネジメント学科 (△110) (3年次編入学定員) (△15) 健康鍼灸学科 (△30) 健康柔道整復学科 (△30)</p> <p>保健医療学部 理学療法学科 (△40) 作業療法学科 (△40)</p> <p>平成25年4月学生募集停止 (2年次編入学定員については、平成26年4月から、3年次編入学定員については、平成27年4月から学生募集停止)</p> <p>富士常葉大学(廃止)</p> <p>総合経営学部 総合経営学科 (△160) (3年次編入学定員) (△45)</p> <p>社会環境学部 社会環境学科 (△130) (3年次編入学定員) (△10)</p> <p>保育学部 保育学科 (△80) (3年次編入学定員) (△5)</p> <p>平成25年4月学生募集停止 (編入学定員については、平成27年4月学生募集停止)</p> <p>常葉学園大学 教育学部 生涯学習学科 (3年次編入学定員) [定員減] (△5) 心理教育学科 (3年次編入学定員) [定員減] (△5)</p> <p>外国語学部 英米語学科 (3年次編入学定員) [定員減] (△5) グローバルコミュニケーション学科 (3年次編入学定員) [定員減] (△5)</p> <p>平成25年4月名称変更予定 常葉学園大学→常葉大学 常葉学園短期大学→常葉大学短期大学部</p>

(注) 「備考」欄の()書きの数字は、今回の認可申請に伴う、既設学部等の入学定員の変更状況を示す。

区分	大 学 名	学 部 名 学 科 等 名	入 学 定 員	位 置	設 置 者	留 意 事 項	備 考	
私立	大阪観光大学	国際交流学部 国際交流学科 (3年次編入学定員)	60 5	大阪府泉南郡熊取町	学校法人 明浄学院	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程が英語のスキル向上と「日本学」に偏重していることから、本学部の養成する人材像に掲げる「日本人としての基礎的教養」、「人類社会が抱える今日的課題を自覚できる人間」等を涵養する教育課程となるよう適切に見直すこと。 ・「日本学」に関して、日本の風土、言語、思想等に関する授業科目を並べるのではなく、各授業科目が有機的に繋がり、一つの学習プログラムを形成できるよう授業内容、選択・必修の別等を更に検討し、科目開設時までに適切に見直すこと。 ・主に日本人学生を対象とした教育課程であり、広報において「世界をつなぐ日本人になろう」、「和魂地球人」ということを掲げているが、一方で外国人学生を一定数受け入れる計画であることから、外国人学生向けの教育課程について、更に検討し、適切に整備すること。 ・外国人学生の受け入れについて、計画にある「留学生枠」の設定を明確にし、受験生に周知するとともに、外国人学生の入学者選抜において、日本人学生と同様に英語の基礎学力を要件とすることが不明瞭であるため、本学の英語教育への取組みに鑑みて、外国人学生に対しても入学段階で英語に関する要件を課すこと。 ・「国際日本プログラム」10科目の授業科目名称を見直し、必要であれば改めること。特に「マイノリティ研究」(3、4年後期)について、基礎的な内容である「異文化基礎理解」(1年前期)、「文化人類学」(2年前期)、「多文化共生論」(3年前期)と教育内容が積み上げられていくと考えられるため、「多文化共生論」を発展させる授業科目名称、授業内容とすることを検討し、必要であれば適切に見直すこと。 ・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。 ・既設校(大阪観光大学 観光学部 観光学科)が定員未充足の状態にあることから、新設学部を含め、大学全体において、確実に学生を確保できるよう取組むこと。 ・近年、帰属収支差額がマイナスの状態が続いていることから、収支の改善を図り、経営基盤の安定確保に努めること。 	観光学部 観光学科〔定員減〕 (3年次編入学定員)	(△60) (△5)
計	4 校	(3年次編入学定員) 4学部 5学科	25 520	認可申請に伴う、既設学部等の入学定員の変更状況			(2年次編入学定員) △ 30 大 学 △ 1220 (3年次編入学定員) △ 207	

(注) 「備考」欄の()書きの数字は、今回の認可申請に伴う、既設学部等の入学定員の変更状況を示す。